

2023 年度（令和 5 年度）事業報告

I. 全体概観

2020 年に始まった新型コロナウイルス感染症は法律上の位置づけも 5 類に移行し、社会生活も平時の様相を取り戻している。当財団では昨年 4 月に所長・院長が交代して、新体制での財団運営がスタートした。

付属病院では、病院業務の運営改善を中心に、期初、新院長より、循環器専門病院として患者様や医療関係者等から「選ばれる心研」になり、職員の働きがいを高めるような病院にしていきたいとの方針が打ち出された。その共有化に向けて院長と全職員との少人数での対話集会を実施した。

運営面では、入退院支援センターの設置や緊急救急受入れの拡大プロジェクトでタスクシフト／タスクシェアを進めて業務改善に取り組んだ。新体制への移行と合わせて連携活動を活性化させると共に、医療ツーリズムでの患者取込みに向けた対応も始めた。また 2024 年 4 月に施行となった「医師の働き方改革」への対応を網羅的に実施し、準備を終えることができた。

また、バランスの取れた循環器専門病院を実現するためには中長期的観点での心臓血管外科診療体制の強化が必要との認識に立ち、2024 年度から新たな体制で再スタートすることとした。

一方で、2024 年度からの心臓血管外科診療体制の変更に伴う影響で、2023 年度の外科の手術件数は 2022 年度を大きく下回ることになり（2022 年度 76 件、2023 年度 43 件）、2023 年度の診療収益は、2022 年度を下回る 41 億円弱に留まることとなった。足元の財務面への影響は小さくないが、中長期的サステナビリティ確保に向けた、必要で、一時的な足踏みと認識している。

コロナ禍の影響を脱し、循環器内科を中心に、当院の地力を回復してきてはいるが、循環器内科・心臓血管外科のバランスが取れた医療提供体制の再構築が喫緊の課題である。加えて、六本木に立地する循環器専門病院である当院が中長期的サステナビリティを確保するためには、急性期の循環器疾患治療を中核に据えつつ、必要な投資を行いながら、環境変化に即した対応を行っていく事が求められている。

こうした課題認識に立って、専門病院として高度で質の高い医療サービスを引き続き提供して将来も「選ばれる」病院であろうと、3ヶ年の中期経営計画「選ばれる心研 2026」の策定を行った。付属病院の「ありたい姿」として下記を掲げた。

「循環器疾患の専門病院として、最良の医療サービスを提供し、
いちばん『選ばれる』病院となり、地域に貢献し続ける」

この新中期経営計画では、「ありたい姿」実現に向けた取組みを以下の 3 つの領域に区分けし、

現在、それぞれの領域において具体的な取組み施策を策定・実施している。

- ①経営体力を強化するための取組み
- ②「選ばれ、信頼され続ける」病院であるための取組み
- ③病院の運営基盤を支える取組み

取組み施策は、直接診療に関連するものから医師の働き方や職員の働きがい向上に向けたものまで多岐に亘るが、優先度・重要度の高いものから具体策を打ち出し、前倒しにて取組みが可能な一部施策については2023年度から、新中期経営計画の取組みを開始させている。

他方、研究所においては、組織を横断する研究及び全国的な多施設共同研究を地道に継続し、日本循環器学会に30演題、英文原著論文27編という充実した実績を出している。

また、心研DBを活用しながらAIを利用した研究への展開を図り、日本循環器学会ではAI関連のみで6演題と多数の発表を行い注目された。

II. 2023 年度運営における取組み

1. 研究活動部門

・2023年度は、組織を横断する4部門・4ユニットからなる研究を推進し、全体として日本循環器学会にて30演題、英文原著論文27編という充実した成果を得ることができた。

(1) ARO 部門 (CVI ARO)

2014 年度に設立した CVI ARO は、本邦における多施設共同研究の拠点を提供することを目指すものである。

2023年度は、CVI AROが事務局を務め、全国レベルで約30000例を超える高齢者心房細動症例を登録したANAFIE Registryで、その主要解析ならびにサブ解析として計10編の英文原著論文を発表した。日本の高齢者における抗凝固療法の実情、イベント発症率に対する多様な患者背景の影響を国内最大規模のデータによって明らかにしたものであり、2024年3月に発表された「2024 年 JCS/JHRS ガイドラインフォーカスアップデート版不整脈治療」には、ANAFIE Registryの原著論文が多数引用された。

<2023 年度原著論文 (英文) >

1. Shimizu W, Yamashita T, et al. Renal Function and Clinical Outcomes Among Elderly Patients With Nonvalvular Atrial Fibrillation From ANAFIE. ACC Asia. 2023 Apr 11;3(3):475-487
2. Terauchi Y, Yamashita T, et al. Impact of glycated hemoglobin on 2-year clinical outcomes in elderly patients with atrial fibrillation: sub-analysis of ANAFIE Registry, a large observational study. Cardiovasc Diabetol. 2023 Jul 12;22(1):175.
3. Koretsune Y, Yamashita T, et al. Coagulation Biomarkers and Clinical Outcomes in Elderly Patients With Nonvalvular Atrial Fibrillation: ANAFIE Subcohort Study. JACC Asia. 2023 Aug 15;3(4):595-607.
4. Akao M, Yamashita T, et al. Comprehension of Nonvalvular Atrial Fibrillation and Anticoagulant Adherence in Elderly Patients in a Subcohort Study of the All Nippon Atrial Fibrillation in the Elderly Registry. Am J Cardiol. 2023 Oct 1;204:159-167.
5. Hiasa K, Yamashita T, et al. Echocardiographic Parameters of Left Atrial Structure and Function and Clinical Outcomes at 2 Years in Elderly Patients With Atrial Fibrillation - The ANAFIE Echocardiographic Substudy. Circ J. 2023 Oct 28.
6. Shiozawa M, Yamashita T, et al. Risk of both intracranial hemorrhage and ischemic stroke in elderly individuals with nonvalvular atrial fibrillation taking direct oral anticoagulants compared with warfarin: Analysis of the ANAFIE registry. Int J Stroke. 2023 Oct;18(8):986-

995.

7. Akao M, Yamashita T, et al. Relationship Between Direct Oral Anticoagulant Doses and Clinical Outcomes in Elderly Patients With Non-Valvular Atrial Fibrillation - ANAFIE Registry Sub-Analysis. *Circ J.* 2023 Nov 24;87(12):1765-1774.
8. Kario K, Yamashita T, et al. Anticoagulant therapy and home blood pressure-associated risk for stroke/bleeding events in elderly patients with non-valvular atrial fibrillation: the sub-cohort study of ANAFIE registry. *Hypertens Res.* 2023 Dec;46(12):2575-2582.
9. Ikeda S, Yamashita T, et al. Clinical outcomes and anticoagulation therapy in elderly non-valvular atrial fibrillation and heart failure patients *ESC Heart Fail.* 2024 Jan 11.3

(2) 心研データベース (Shinken Database) 部門 -----

Shinken Database による解析は全体として、2023 年度日本循環器学会に合計 25 演題 (不整脈 8、冠動脈 12、心不全 5) が採択された。このうち AI 心電図による「Shinken AI-ECG データベース」からの採択が 6 演題であった。

[1] 不整脈ユニット

2023 年度は、肺静脈隔離術における very high power short duration ablation の効果、持続性心房細動患者における診断から治療までの期間のアブレーション治療に対する影響、AI を用いた心電図による心疾患診断に関する研究を日本循環器学会で報告、その他参加した多施設共同研究の結果などを含め、英文原著論文計 11 編を報告した。

<2023 年度原著論文 (英文) >

1. Hirota N, et al. Identification of patients with dilated phase of hypertrophic cardiomyopathy using a convolutional neural network applied to multiple, dual, and single lead electrocardiograms *Int J Cardiol Heart Vasc.* 2023 Apr 25;46:101211
2. Kodani E, Yamashita T, et al. Predictive ability of visit-to-visit blood pressure indices for adverse events in patients with non-valvular atrial fibrillation: Subanalysis of the J-RHYTHM Registry *Int J Cardiol Heart Vasc.* 2023 May 6;46:101216
3. Tsuda T, Otsuka T, et al. Effect of Catheter Ablation for Atrial Fibrillation in Heart Failure With Mid-Range or Preserved Ejection Fraction - Pooled Analysis of the AF Frontier Ablation Registry and Hokuriku-Plus AF Registry. *Circ J.* 2023 Jun 23;87(7):939-946
4. Migita S, Yamashita T, et al. Rivaroxaban treatment for asymptomatic venous thromboembolism: insights from the J'xactly study. *Thromb J.* 2023 Aug 21;21(1):88.
5. Shimizu W, Yamashita T, et al. Effectiveness and safety of reduced-dose rivaroxaban for elderly patients with non-valvular atrial fibrillation: A subanalysis of the EXPAND study *Int J Cardiol.*

2023 Aug 22:131290.

6. Suzuki S, et al. Choosing Between HELT-E2S2 and CHA2DS2-VASc in Japan — Moving Beyond CHADS2 Reliance? —. *Circ J.* 2023 Nov 24;87(12):1788-1789.
7. Akao M, Yamashita T, et al. Efficacy and Safety of Low-Dose Edoxaban by Body Weight in Very Elderly Patients With Atrial Fibrillation: A Subanalysis of the Randomized ELDERCARE-AF Trial *J Am Heart Assoc.* 2024 Feb 6;13(3):e031506.
8. Kumano O, Suzuki S, et al. Age-related variation in coagulation factors in non-valvular atrial fibrillation patients receiving direct oral anticoagulants *Int J Hematol.* 2024 Feb 9.
9. Suzuki S, et al. Lead-Specific Performance for Atrial Fibrillation Detection in Convolutional Neural Network Models Using Sinus Rhythm Electrocardiography *Circ Rep.* 2024 Feb 27;6(3):46-54.
10. Arita T, et al. Identifying patients with acute aortic dissection using an electrocardiogram with convolutional neural network *Int J Cardiol Heart Vasc.* 2024 Mar 22:51:101389
11. Hirota N, et al. Evaluating convolutional neural network-enhanced electrocardiography for hypertrophic cardiomyopathy detection in a specialized cardiovascular setting *Heart Vessels.* 2024 Mar 30.0

[2]心不全ユニット

心肺運動負荷エコーを用いた心不全の診断と治療介入に関する検討、心エコーを用いた心房細動予測スコアの確立、心不全入院患者における体液分布と予後、当院通院患者における Cardio-renal metabolic overlap の予後への影響などを日本循環器学会に報告した。昨年度に終了した「コロナ禍における遠隔モニタリングを用いた在宅運動療法の運動耐容能への効果」は日本心臓リハビリテーション学会誌に掲載された。

その他、厚労科研事業（循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究）に参画し、「慢性心不全の遠隔期における心臓リハビリテーションの予後」、並びに「冠動脈疾患患者の遠隔期における心臓リハビリテーションの効果」について、それぞれレビューとして報告した。

NPO 法人ジャパンハートクラブで以前行った多施設共同研究の post hoc 解析についても論文化し掲載された。

<2023 年度原著論文（英文）>

1. Okada A, Hayashi K, et al. Psychometric properties of the Japanese version of the Self-Care of Heart Failure Index version 7.2. *Eur J Cardiovasc Nurs.* 2023 Jul 20:zvad069.
2. Yamamoto S, Kato Y, et al. Impact of Long-Term Exercise-Based Cardiac Rehabilitation in

[3]冠動脈疾患ユニット

2023年度は、CCU入室患者から構成された多施設共同レジストリー(東京都CCUネットワーク)を基にした急性心筋梗塞患者の予後に関する研究、冠動脈慢性完全閉塞病変に対するPCIの国内大規模レジストリーのサブ解析を英語原著論文として発表した。また、心機能の低下した患者における慢性完全閉塞病変PCIに関して米国医師との共著で総説を発表した。

<2023年度原著論文(英文)>

1. Nakachi T, Oikawa Y, et al. Machine Learning for Prediction of Technical Results of Percutaneous Coronary Intervention for Chronic Total Occlusion J Clin Med. 2023 May 9;12(10):3354
2. Wakabayashi K, Kishi M, et al. Clinical features and predictors of non-cardiac death in patients hospitalised for acute myocardial infarction: Insights from the Tokyo CCU network multicentre registry. Int J Cardiol. 2023 May 1;378:1-7
3. Ebisawa S, Oikawa Y, et al. Impact of minimum contrast media volumes during percutaneous coronary intervention for chronic total occlusion lesion Heart Vessels. 2023 Sep;38(9):1108-1116
4. Niizeki T, Oikawa Y, et al. New Angiographic Difficulty Score for First-Attempt Chronic Total Occlusion in the 3 Major Coronary Arteries JACC Cardiovasc Interv 2023 Oct 23;16(20):2542-2551
5. Ochiumi Y, Oikawa Y, et al. The Characteristics of Primary Retrograde Approach Selection for Native Coronary Chronic Occlusion With Short Occlusion Length from the Japanese CTO-PCI Expert Registry Am J Cardiol 2024 Mar 1;218:113-1208

[4]外科治療ユニット

2023年度は、MICSの精度の向上とともに、大動脈弁、心室中隔欠損症例、冠動脈バイパス術症例に対しても症例を重ね施設認定、実施医取得も行った。研究に関しては、MICS症例に関する学会報告、大動脈弁形成に関する多施設共同研究の結果を、Asian Cardiovascular and Thoracic Annalsに投稿し掲載され、南江堂『胸部外科』にも掲載予定となっている。

(3) 臨床試験部門

2023年度は、2022年度より継続している治験と製造販売後臨床試験および新規依頼の治験を実施した。また、治験においては、医薬品・医療機器の臨床試験の実施の基準に関する省令（GCP省令）を遵守し、治験以外の臨床研究については、研究者が生命・医学系倫理指針や臨床研究法等関連法規が求める要件を満たした研究が行えるよう継続してサポートを行った。

<2023年度に実施した治験・製造販売後臨床試験> (7件 うち2024年度継続5件)

試験名（略称）	薬剤・機器の種類	対象	契約 症例数	実施数	状況
BuMA-001 臨床試験	生体吸収性ポリマー 薬剤溶出型ステント	狭心症	10	8	2024年度継続 (登録終了)
NP030 臨床試験	薬剤コーティングバルーン	狭心症	15	5	2024年度継続 (登録終了)
NP024 臨床試験	ポリマーなし 薬剤溶出型ステント	狭心症	15	14	2024年度継続 (登録終了)
ELX 1805J 臨床試験	薬剤溶出型バイオアダプター	狭心症	14	14	2024年度継続 (登録終了)
KCB01 臨床試験	カッティングバルーン	狭心症	10	9	2023年度終了
AI-RFGW-001 探索的試験	PMA システム	冠動脈慢性完全閉塞病変	2	1	2023年度終了
Librexia Af 第Ⅲ相試験	抗凝固薬 (第XIa 因子阻害薬)	心房細動 心房粗動	20	3	2024年度継続 (登録期間中)

2. 付属病院

- ・ 2023 年度は、引き続き、医療サービスの質の向上を継続させ、循環器専門病院としての役割を確り果たすことが出来た。また新院長の主導のもと、緊急救急受入れ拡大、医療連携活動の活性化に取組み、新規紹介患者数は4年ぶりに2,000名を超えることができた。
- ・ しかしながら、心臓血管外科診療体制の変更に伴う影響で、外科の手術件数は、前年度を大きく下回ることになり、診療収益は、41億円弱に留まることとなった。

<主な診療実績>

①診療収入

診療収入	2023 年度 実績 (百万円)	予算 達成率 (%)	前年度比	
			増減 (百万円)	伸び率 (%)
外来収入	1,091	89.5%	▲7	▲0.6%
入院収入	2,956	89.7%	▲232	▲7.3%
合計	4,049	89.9%	▲229	▲5.4%

②延べ患者数

診療収入	2023 年度 実績 (人)	予算 達成率 (%)	前年度比	
			増減 (人)	伸び率 (%)
外来患者	54,082	87.1%	▲1,870	▲3.3%
入院患者	16,556	89.0%	▲640	▲3.7%

③内科部門

心臓カテーテル治療	2023 年度 実績 (件)	予算 達成率 (%)	前年度比	
			増減 (件)	伸び率 (%)
心臓カテーテル検査	846	86.2%	▲55	▲6.1%
冠動脈形成術 (PCI) 等	611	99.0%	+6	+1.0%
心筋焼灼術 (ABL) 等	472	96.1%	±0	±0.0%
経カテーテル的大動脈置換術 (TAVI)	22	55.0%	▲17	▲43.6%

④外科部門

手術	2023 年度 実績 (件)	予算 達成率 (%)	前年度比	
			増減 (件)	伸び率 (%)
開心術 (内 MICS)	43 (20)	43.0%	▲33 (▲11)	▲43.4% (▲35.4%)
ステントグラフト	16	61.5%	▲12	▲42.9%
PMI/ICD	107	93.8%	+13	+13.8%

(1) 低侵襲治療の推進

- ・ 患者の高齢化により侵襲的な治療を受けることが難しい症例の増加を踏まえ、特に、弁膜症をはじめとした構造的な疾患への低侵襲治療の推進を実施した。

① 従来から実施している低侵襲治療の推進

- ・ 冠動脈疾患に対する冠動脈インターベンションや不整脈に対するカテーテルアブレーションにおいては引き続き、都内 23 区でトップレベルの実績となった。
- ・ 冠動脈インターベンション治療では、心臓カテーテル検査で 52 件減少、冠動脈形成術(PCI)等で 6 件減少となり、前年度に比べ若干、減少したものの引き続き高い実績となった。
- ・ 不整脈に対するカテーテルアブレーション治療は 472 件となり、前年度と同数を確保した。

② 新たな低侵襲的なカテーテル治療の導入

- ・ 2022 年度から本格的に取り組んでいる TAVI は、患者の一巡化等を背景に、実施数が 22 件（前年度比 17 件減少）に留まった。
- ・ 加えて、新たな低侵襲的なカテーテル治療である Watchman の導入を実施した。本年度は実施数が 6 件となり、順調な運用開始ができたと考えている。

③ MICS の推進

- ・ 完全鏡視下での外科低侵襲治療 (MICS) は、引き続き実施施設が限定される先進的なものとして、情報に敏感な患者層に訴求できる手技であるが、心臓血管外科診療体制の変更に伴う影響で、実施数 20 件（前年度比 11 件減少）に留まった。

(2) 救急医療の拡充

- ・ 患者の高齢化に伴い、ここ 10 年で救急出動件数が漸増しており、病院の救急受入れは地域医療の重要なニーズとなっている。当院は循環器専門病院であるため全ての救急患者を受入れられるわけではないが、外科・内科の循環器両分野において出来るだけ多くの患者を受入れ、地域のニーズに応える取組みを実施した。
- ・ 本年度は、前年度と同水準の月平均 50 件の救急車の受入れを行うことができた。救急受入れは入院患者数の増加にもつながっており、救急医療の拡充は病床稼働率の上昇にも貢献している。

(3) 入退院プロセスの迅速化と効率的な病床運営

- ・ 現代は時間に価値を見出す人も多く、医療の質だけでなく診断や治療へのプロセスの迅速性も求められるようになっており、このような患者利便性を確保するため、「入退院支援センター」を設置し、運用を行った。本取組みにより、入退院プロセスの迅速性を確保することができた。

(4) 新規患者数の増加

① 診療連携活動

- ・ 循環器専門病院である当院にとって、連携先医療機関からの患者紹介は病院運営の基盤である。紹介実績の多い近隣区の中核紹介先を中心に、連携先医療機関との関係強化を実施し、本年度は、4年ぶりに新規紹介患者数2,000名を超える実績となった。

(5) 働きやすい病院づくり

- ・ 病院のサステナビリティ確保のためには、職員一人一人の「働きやすさ」や「働きがい」が欠かせないものである。新院長の就任のタイミングを捉え、全職員との少人数での対話集会を実施し、各自が業務運営について考えていることを直接、伝える場を提供した。
- ・ 本対話集会での意見を、病院運営に活かす取組みを実施している。

Ⅲ. 事業報告附属明細表

特段記載する事項はありません。

貸借対照表

2024年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金・預金	668,301,649	985,163,678	△ 316,862,029
医業未収金	553,470,733	636,254,295	△ 82,783,562
貸倒引当金	-	-	-
未収金	3,654,290	7,436,235	△ 3,781,945
医薬品	14,250,003	20,282,231	△ 6,032,228
前払費用	9,409,979	10,996,866	△ 1,586,887
未収収益	888,372	885,109	3,263
その他の流動資産	9,756,968	3,505,104	6,251,864
流動資産合計	1,259,731,994	1,664,523,518	△ 404,791,524
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
土地	3,576,602,218	3,576,602,218	-
預金	660,324	660,324	-
投資有価証券	109,973,072	109,935,608	37,464
基本財産合計	3,687,235,614	3,687,198,150	37,464
(2) 特定資産			
退職給付引当特定資産	328,309,964	328,752,100	△ 442,136
医療用設備投資引当特定資産	1,222,722,202	1,222,822,475	△ 100,273
特定資産合計	1,551,032,166	1,551,574,575	△ 542,409
(3) その他固定資産			
有形固定資産			
建物	3,653,450,562	3,647,754,762	5,695,800
建物減価償却累計額	△ 1,221,255,206	△ 1,125,106,193	△ 96,149,013
医療用器械備品	1,692,750,074	1,672,770,044	19,980,030
医療用器械備品減価償却累計額	△ 1,496,943,916	△ 1,439,743,035	△ 57,200,881
その他器械備品	291,275,632	238,587,068	52,688,564
その他器械備品減価償却累計額	△ 211,121,043	△ 187,511,016	△ 23,610,027
土地	3,773,857,636	3,773,857,636	-
有形固定資産合計	6,482,013,739	6,580,609,266	△ 98,595,527
無形固定資産			
ソフトウェア	87,933,888	43,324,981	44,608,907
その他の無形固定資産	19,336	29,424	△ 10,088
無形固定資産合計	87,953,224	43,354,405	44,598,819
その他の資産			
敷金	6,569,000	7,136,000	△ 567,000
長期前払費用	590,584	1,205,418	△ 614,834
破産更正債権等	2,128,797	2,411,235	△ 282,438
貸倒引当金	△ 2,128,797	△ 2,411,235	282,438
その他の資産合計	7,159,584	8,341,418	△ 1,181,834
その他固定資産合計	6,577,126,547	6,632,305,089	△ 55,178,542
固定資産合計	11,815,394,327	11,871,077,814	△ 55,683,487
資産合計	13,075,126,321	13,535,601,332	△ 460,475,011

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
II 負債の部			
1. 流動負債			
買 掛 金	321,176,280	307,467,334	13,708,946
未 払 金	160,791,792	124,195,244	36,596,548
前 受 金	461,600	-	461,600
預 り 金	12,452,621	12,772,513	△ 319,892
賞 与 引 当 金	95,717,981	96,773,257	△ 1,055,276
流動負債合計	590,600,274	541,208,348	49,391,926
2. 固定負債			
長 期 未 払 金	13,966,053	22,557,016	△ 8,590,963
退 職 給 付 引 当 金	559,366,427	622,977,019	△ 63,610,592
固定負債合計	573,332,480	645,534,035	△ 72,201,555
負債合計	1,163,932,754	1,186,742,383	△ 22,809,629
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	-	-	-
指定正味財産合計	-	-	-
(うち基本財産への充当額)	(-)	(-)	(-)
(うち特定資産への充当額)	(-)	(-)	(-)
2. 一般正味財産	11,911,193,567	12,348,858,949	△ 437,665,382
(うち基本財産への充当額)	(3,687,235,614)	(3,687,198,150)	(37,464)
(うち特定資産への充当額)	(1,222,722,202)	(1,222,822,475)	(△ 100,273)
正味財産合計	11,911,193,567	12,348,858,949	△ 437,665,382
負債及び正味財産合計	13,075,126,321	13,535,601,332	△ 460,475,011

正味財産増減計算書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減	備考
I 一般正味財産増減の部				項番 1
1. 経常増減の部				2
(1) 経常収益				3
基本財産運用益	368,128	367,373	755	4
基本財産受取利息	368,128	367,373	755	5
特定資産運用益	2,376,811	2,376,970	△ 159	6
特定資産受取利息	2,376,811	2,376,970	△ 159	7
診療事業収益	4,049,573,653	4,278,605,415	△ 229,031,762	8
入院診療収益	2,777,798,658	3,012,873,069	△ 235,074,411	9
室料差額収益	178,997,900	175,999,140	2,998,760	10
外来診療収益	1,091,616,509	1,099,506,407	△ 7,889,898	11
保健予防活動収益	6,476,796	2,249,247	4,227,549	12
その他の医業収益	10,785,950	9,640,182	1,145,768	13
査定減	△ 16,102,160	△ 21,662,630	5,560,470	14
受取寄附金	174,003,000	176,000,000	△ 1,997,000	15
通常受取寄附金	24,003,000	26,000,000	△ 1,997,000	16
特別受取寄附金	150,000,000	150,000,000	-	17
研究受託収益	12,776,110	28,521,051	△ 15,744,941	18
貸倒引当金戻入収益	655,164	358,800	296,364	19
雑収益	31,737,079	30,630,467	1,106,612	20
駐車場収益	11,814,000	11,814,000	-	21
受取利息	10	-	10	22
その他雑収益	19,923,069	18,816,467	1,106,602	23
経常収益計	4,271,489,945	4,516,860,076	△ 245,370,131	24
(2) 経常費用				25
事業費	4,647,561,643	4,710,644,885	△ 63,083,242	26
人件費	1,672,747,264	1,618,669,451	54,077,813	27
給料手当	1,060,544,150	1,006,729,730	53,814,420	28
役員報酬	74,037,357	82,340,600	△ 8,303,243	29
賞与	173,808,249	176,755,960	△ 2,947,711	30
賞与引当金繰入額	94,022,640	95,491,659	△ 1,469,019	31
退職給付費用	86,449,047	82,936,484	3,512,563	32
法定福利費	183,885,821	174,415,018	9,470,803	33
材料費	1,983,163,427	2,118,640,309	△ 135,476,882	34
医薬品費	509,708,043	514,753,882	△ 5,045,839	35
診療材料費	1,455,627,719	1,585,771,774	△ 130,144,055	36
医療消耗器具備品費	2,482,579	4,978,389	△ 2,495,810	37
給食用材料費	15,345,086	13,136,264	2,208,822	38
委託費	277,848,644	262,821,548	15,027,096	39
検査委託費	77,613,327	86,538,248	△ 8,924,921	40
給食委託費	32,076,000	32,076,000	-	41
寝具委託費	5,990,035	6,096,923	△ 106,888	42
医事委託費	4,705,353	9,170,731	△ 4,465,378	43
清掃委託費	29,538,080	27,093,660	2,444,420	44
保守委託費	61,613,169	56,334,910	5,278,259	45
その他の委託費	66,312,680	45,511,076	20,801,604	46
設備関係費	395,998,566	374,204,289	21,794,277	47
減価償却費	255,084,745	235,752,963	19,331,782	48 ※
器機賃借料	19,109,109	18,119,978	989,131	49
修繕費	7,899,794	13,832,816	△ 5,933,022	50
固定資産税等	3,100,123	3,021,400	78,723	51
器機保守料	109,822,911	102,545,510	7,277,401	52
器機設備保険料	981,884	931,622	50,262	53
研究研修費	39,460,299	53,816,908	△ 14,356,609	54
研究図書費	4,226,891	4,024,548	202,343	55
研修費	35,233,408	49,792,360	△ 14,558,952	56

※うち 建物9,614万円、医療機器10,569万円、その他器械備品3,456万円

科目	当年度	前年度	増減	備考
経費	271,070,956	274,763,194	△ 3,692,238	57
福利厚生費	52,775,467	52,869,723	△ 94,256	58
旅費交通費	28,597,124	27,618,547	978,577	59
職員被服費	13,476,760	13,246,457	230,303	60
通信費	20,505,294	20,385,862	119,432	61
広告宣伝費	2,489,235	8,375,071	△ 5,885,836	62
消耗品費	22,407,859	18,965,745	3,442,114	63
消耗器具備品費	35,200	1,191,361	△ 1,156,161	64
水道光熱費	70,903,750	81,721,573	△ 10,817,823	65
保険料	1,044,044	1,166,394	△ 122,350	66
交際費	2,715,223	2,879,201	△ 163,978	67
諸会費	1,089,671	943,230	146,441	68
租税公課	10,821,730	11,729,880	△ 908,150	69
医業貸倒損失	-	-	-	70
貸倒引当金繰入額	411,724	1,190,397	△ 778,673	71
雑費	43,797,875	32,479,753	11,318,122	72
受託研究費等	7,272,487	7,729,186	△ 456,699	73
管理費	63,085,679	55,183,114	7,902,565	74
人件費	52,960,754	47,349,765	5,610,989	75
給料手当	13,250,029	10,490,312	2,759,717	76
役員報酬	29,760,461	27,079,384	2,681,077	77
賞与	3,512,810	2,098,589	1,414,221	78
賞与引当金繰入額	1,695,341	1,281,598	413,743	79
退職給付費用	1,120,700	2,666,863	△ 1,546,163	80
法定福利費	3,621,413	3,733,019	△ 111,606	81
委託費	8,057,545	5,884,979	2,172,566	82
経費	2,067,380	1,948,370	119,010	83
福利厚生費	-	-	-	84
旅費交通費	839,420	707,610	131,810	85
会議費	175,880	163,480	12,400	86
保険料	520,420	652,760	△ 132,340	87
支払利息	-	-	-	88
雑費	531,660	424,520	107,140	89
経常費用計	4,710,647,322	4,765,827,999	△ 55,180,677	90
当期経常増減額	△ 439,157,377	△ 248,967,923	△ 190,189,454	91
2. 経常外増減の部				92
(1) 経常外収益				93
土地売却差益	-	163,291,815	△ 163,291,815	94
固定資産売却益	1,491,995	-	1,491,995	95
経常外収益計	1,491,995	163,291,815	△ 161,799,820	96
(2) 経常外費用				97
固定資産除却損	-	-	-	98
固定資産売却損	-	-	-	99
経常外費用計	-	-	-	100
当期経常外増減額	1,491,995	163,291,815	△ 161,799,820	101
当期一般正味財産増減額	△ 437,665,382	△ 85,676,108	△ 351,989,274	102
一般正味財産期首残高	12,348,858,949	12,434,535,057	△ 85,676,108	103
一般正味財産期末残高	11,911,193,567	12,348,858,949	△ 437,665,382	104
II 指定正味財産増減の部				105
一般正味財産への振替額	-	-	-	106
当期指定正味財産増減額	-	-	-	107
指定正味財産期首残高	-	-	-	108
指定正味財産期末残高	-	-	-	109
III 正味財産期末残高	11,911,193,567	12,348,858,949	△ 437,665,382	110

正味財産増減計算書 内訳書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

(単位:円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	184,064	184,064	368,128
基本財産受取利息	184,064	184,064	368,128
特定資産運用益	2,376,811	-	2,376,811
特定資産受取利息	2,376,811	-	2,376,811
診療事業収益	3,986,672,038	62,901,615	4,049,573,653
受取寄附金	174,003,000	-	174,003,000
通常受取寄附金	24,003,000	-	24,003,000
特別受取寄附金	150,000,000	-	150,000,000
研究受託収益	12,776,110	-	12,776,110
貸倒引当金戻入収益	655,164	-	655,164
雑収益	31,737,079	-	31,737,079
駐車場収益	11,814,000	-	11,814,000
受取利息	10	-	10
その他雑収益	19,923,069	-	19,923,069
経常収益計	4,208,404,266	63,085,679	4,271,489,945
(2) 経常費用			
事業費	4,647,561,643		4,647,561,643
人件費	1,672,747,264		1,672,747,264
給料手当	1,060,544,150		1,060,544,150
役員報酬	74,037,357		74,037,357
賞与	173,808,249		173,808,249
賞与引当金繰入額	94,022,640		94,022,640
退職給付費用	86,449,047		86,449,047
法定福利費	183,885,821		183,885,821
材料費	1,983,163,427		1,983,163,427
医薬品費	509,708,043		509,708,043
診療材料費	1,455,627,719		1,455,627,719
医療消耗器具備品費	2,482,579		2,482,579
給食用材料費	15,345,086		15,345,086
委託費	277,848,644		277,848,644
検査委託費	77,613,327		77,613,327
給食委託費	32,076,000		32,076,000
寝具委託費	5,990,035		5,990,035
清掃委託費	29,538,080		29,538,080
保守委託費	61,613,169		61,613,169
その他の委託費	66,312,680		66,312,680
設備関係費	395,998,566		395,998,566
減価償却費	255,084,745		255,084,745
器機賃借料	19,109,109		19,109,109
修繕費	7,899,794		7,899,794
固定資産税等	3,100,123		3,100,123
器機保守料	109,822,911		109,822,911
器機設備保険料	981,884		981,884
研究研修費	39,460,299		39,460,299
研究図書費	4,226,891		4,226,891
研修費	35,233,408		35,233,408

科目	公益目的事業会計	法人会計	合計
経費	271,070,956		271,070,956
福利厚生費	52,775,467		52,775,467
旅費交通費	28,597,124		28,597,124
職員被服費	13,476,760		13,476,760
通信費	20,505,294		20,505,294
広告宣伝費	2,489,235		2,489,235
消耗品費	22,407,859		22,407,859
消耗器具備品費	35,200		35,200
水道光熱費	70,903,750		70,903,750
保険料	1,044,044		1,044,044
交際費	2,715,223		2,715,223
諸会費	1,089,671		1,089,671
租税公課	10,821,730		10,821,730
医業貸倒損失	-		-
貸倒引当金繰入額	411,724		411,724
雑費	43,797,875		43,797,875
受託研究費等	7,272,487		7,272,487
管理費		63,085,679	63,085,679
人件費		52,960,754	52,960,754
給料手当		13,250,029	13,250,029
役員報酬		29,760,461	29,760,461
賞与		3,512,810	3,512,810
賞与引当金繰入額		1,695,341	1,695,341
退職給付費用		1,120,700	1,120,700
法定福利費		3,621,413	3,621,413
委託費		8,057,545	8,057,545
経費		2,067,380	2,067,380
福利厚生費		-	-
旅費交通費		839,420	839,420
会議費		175,880	175,880
保険料		520,420	520,420
支払利息		-	-
雑費		531,660	531,660
經常費用計	4,647,561,643	63,085,679	4,710,647,322
当期經常増減額	△ 439,157,377	-	△ 439,157,377
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
固定資産売却益	1,491,995	-	1,491,995
經常外収益計	-	-	-
(2) 經常外費用			
固定資産除却損	-	-	-
固定資産売却損	-	-	-
經常外費用計	-	-	-
当期經常外増減額	1,491,995	-	1,491,995
当期一般正味財産増減額	△ 437,665,382	-	△ 437,665,382
一般正味財産期首残高			
一般正味財産期末残高			
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額			
当期指定正味財産増減額			
指定正味財産期首残高			
指定正味財産期末残高			
III 正味財産期末残高			

キャッシュ・フロー計算書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

科 目	当年度	前年度	増 減
I 事業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 当期一般正味財産増減額	△ 437,665,382	△ 85,676,108	△ 351,989,274
2. キャッシュ・フローへの調整額			
①減価償却費	255,084,745	235,752,963	19,331,782
②長期前払費用償却費	884,834	1,066,390	△ 181,556
③基本財産の増減額（投資有価証券）	△ 37,464	△ 37,361	△ 103
④その他の固定資産の増減額（投資有価証券）	542,409	540,928	1,481
⑤退職給付引当金の増減額	△ 63,610,592	△ 16,169,978	△ 47,440,614
⑥賞与引当金の増減額	△ 1,055,276	△ 2,109,819	1,054,543
⑦医薬未収金にかかる貸倒引当金の増減額	-	-	-
⑧医薬未収金・未収金の増減額	86,565,507	△ 11,597,357	98,162,864
⑨前払費用・未収収益の増減額	1,583,624	△ 121,601	1,705,225
⑩仮払金の増減額	△ 6,251,864	△ 295,032	△ 5,956,832
⑪棚卸資産（医薬品・貯蔵品等）の増減額	6,032,228	△ 6,468,356	12,500,584
⑫買掛金・未払金の増減額	50,305,494	△ 69,015,018	119,320,512
⑬前受金の増減額	461,600	-	461,600
⑭預り金の増減額	△ 319,892	321,266	△ 641,158
⑮土地売却益	-	△ 163,291,815	163,291,815
⑯固定資産売却益	△ 1,491,995	-	△ 1,491,995
小計	△ 108,972,024	△ 117,100,898	8,128,874
3. 指定正味財産増加収入	-	-	-
指定正味財産増加収入計	-	-	-
事業活動によるキャッシュ・フロー	△ 108,972,024	△ 117,100,898	8,128,874
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1. 投資活動収入			
①基本財産取崩収入	-	-	-
②固定資産売却収入	1,492,000	537,135,688	△ 535,643,688
③その他投資活動収入	837,000	1,296,100	△ 459,100
投資活動収入計	2,329,000	538,431,788	△ 536,102,788
2. 投資活動支出			
①特定資産取得支出	-	-	-
②固定資産取得支出	201,088,042	194,004,364	7,083,678
③その他投資活動支出	540,000	1,519,000	△ 979,000
投資活動支出計	201,628,042	195,523,364	6,104,678
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 199,299,042	342,908,424	△ 542,207,466
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	-	-	-
2. 財務活動支出			
①長期未払金振替支出	5,979,600	5,979,600	-
②長期未払金支払支出	2,611,363	2,861,085	△ 249,722
財務活動支出計	8,590,963	8,840,685	△ 249,722
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,590,963	△ 8,840,685	249,722
IV 現金及び現金同等物に係る換金差額	-	-	-
V 現金及び現金同等物の増減額	△ 316,862,029	216,966,841	△ 533,828,870
VI 現金及び現金同等物の期首残高	985,163,678	768,196,837	216,966,841
VII 現金及び現金同等物の期末残高	668,301,649	985,163,678	△ 316,862,029

(注) 1 資金の範囲 資金の範囲には、現金及び現金同等物を含めている。
2 重要な非資金取引 特になし。

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当ありません。

2. 重要な会計方針

平成25年度から「公益法人会計基準」(平成20年4月11日/改正平成21年10月16日:内閣府公益認定等委員会)を採用しています。

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券 … 償却原価法（定額法）によっています。（国庫短期証券を除く。）

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産 … 最終仕入原価法によっています。

(3) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 … 平成22年度に新規取得の建物は定額法、それ以外の有形固定資産は定率法によっています。

無形固定資産 … 定額法によっています。

リース資産 … リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっています。
(所有権移転外ファイナンス・リースに係るリース資産)

(4) 引当金の計上基準

貸倒引当金 … 医薬未収金等の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

賞与引当金 … 職員等に対する賞与の支払にあてるため、将来の支払見込額のうち当期に発生した額を計上しています。

退職給付引当金 … 役員等々の退職金支出に備えるため、職員退職慰労金規程等に基づく期末要支給額に相当する金額を計上しています。

(5) キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲及び重要な非資金取引

キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲には、現金、預金及び現金同等物としての有価証券を含んでいます。
重要な非資金取引はありません。

(6) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっています。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりです。（単位：円）

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
土 地	3,576,602,218	-	-	3,576,602,218
預 金	660,324	-	-	660,324
投資有価証券	109,935,608	37,464	-	109,973,072
小 計	3,687,198,150	37,464	-	3,687,235,614
特定資産				
退職給付引当特定資産	328,752,100	-	442,136	328,309,964
医療用設備投資引当特定資産	1,222,822,475	-	100,273	1,222,722,202
小 計	1,551,574,575	-	542,409	1,551,032,166
合 計	5,238,772,725	37,464	542,409	5,238,267,780

基本財産増加の内訳 … 投資有価証券の償却原価法による簿価の改定（37,464円）

退職給付引当特定資産減少の内訳 … 投資有価証券の償却減価法による簿価の改定（442,136円）

医療用設備投資引当特定資産減少の内訳 … 投資有価証券の償却減価法による簿価の改定（100,273円）

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりです。（単位：円）

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 からの充当額)	(うち一般正味財 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
土 地	3,576,602,218	(-)	(3,576,602,218)	(-)
預 金	660,324	(-)	(660,324)	(-)
投資有価証券	109,973,072	(-)	(109,973,072)	(-)
小 計	3,687,235,614	(-)	(3,687,235,614)	(-)
特定資産				
退職給付引当特定資産	328,309,964	(-)	(-)	(328,309,964)
医療用設備投資引当特定資産	1,222,722,202	(-)	(1,222,722,202)	(-)
小 計	1,551,032,166	(-)	(1,222,722,202)	(328,309,964)
合 計	5,238,267,780	(-)	(4,909,957,816)	(328,309,964)

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりです。（単位：円）

科 目	帳簿価額	時 価	評価損益
第336回利付国債（10年）	400,072,058	401,325,200	1,253,142
第337回利付国債（10年）	109,973,072	110,209,000	235,928
愛知県公募公債27年度15回（10年）	100,577,677	100,440,000	△ 137,677
愛知県公募公債28年度17回（10年）	100,173,783	99,860,000	△ 313,783
広島県公募公債29年度4回（10年）	100,125,283	99,650,000	△ 475,283
合 計	810,921,873	811,484,200	562,327

6. リース取引関係

(1) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

医療用器械備品 … 輸液ポンプ・シリンジポンプ一式

その他器械備品 … 施設内カーテン一式

(2) オペレーティング・リース取引

該当ありません。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産の明細は、財務諸表に対する注記に記載している。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
貸倒引当金	2,411,235	411,724	694,162		2,128,797
賞与引当金	96,773,257	95,717,981	96,773,257		95,717,981
退職給付引当金	622,977,019	87,569,747	151,180,339		559,366,427

財 産 目 録

2024年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	現金	手元有高	運転資金として	174,700
	預金	普通預金 三菱UFJ銀行 六本木支店	"	663,242,939
		普通預金 さわやか信用金庫 六本木支店	"	0
		普通預金 横浜銀行 新橋支店	"	4,884,010
	医業未収金	診療報酬2024年2、3月分等	診療報酬の未入金分	553,470,733
	未収金	雑収益等の未入金分	公益目的事業にかかる未収金	3,654,290
	医薬品	2024年3月末棚卸残高	公益目的事業に使用	14,250,003
	前払費用	前払家賃	職員宿舍の賃貸料の前払い分	1,211,000
		研究用書籍定期購読前払分	2024年度購読料の前払い分	2,854,139
		損害保険料等前払分	2024年度保険料等の前払い分	1,534,477
		その他(保守費用等)	その他公益目的事業にかかる前払費用	3,810,363
	未収収益	基本財産運用収入未収収益	当期運用益の未収分	91,967
		特定資産運用収入未収収益	当期運用益の未収分	796,405
	その他流動資産	両替資金等	公益目的事業に使用	9,756,968
流動資産合計				1,259,731,994
(固定資産)				
基本財産				
	土地	研究用土地 平成19年9月28日取得	公益目的保有財産であり、公益目的事業の用に供している	2,669,780,740
		東京都港区西麻布3丁目79番1 1,015.37㎡	"	478,906,698
		東京都港区西麻布3丁目25番3 183.61㎡	"	427,914,780
		東京都港区西麻布3丁目25番10 164.06㎡	"	
	定期預金	三菱UFJ銀行 六本木支店	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源としている	330,162
		三菱UFJ銀行 六本木支店	運用益を管理事業の財源としている	330,162
	投資有価証券	第337回利付国債(10年) SMBC日興証券本店	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源としている	54,986,536
		第337回利付国債(10年) SMBC日興証券本店	運用益を管理事業の財源としている	54,986,536
基本財産合計				3,687,235,614
特定資産				
	退職給付特定資産	愛知県公募公債27年度15回(10年) SMBC日興証券本店	将来の退職金の支払いに備えるため	100,577,677
		愛知県公募公債28年度17回(10年) SMBC日興証券本店	"	100,173,783
		広島県公募公債29年度4回(10年) SMBC日興証券本店	"	100,125,283
		普通預金 三菱UFJ銀行六本木支店	"	27,433,221
	医療用設備投資引当特定資産	第336回利付国債(10年) 野村證券本店	将来の医療設備・機器の購入に備えるため	400,072,058
		定期預金 三菱UFJ銀行六本木支店	"	30,479,676
		普通預金 三菱UFJ銀行六本木支店	"	792,170,468
特定資産合計				1,551,032,166

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
その他固定資産	建物	東京都港区西麻布三丁目2番19号 鉄骨鉄筋コンクリート造 地上5階地下1階 延 9,041.85㎡ 平成22年11月30日取得	公益目的保有財産であり、公益目的事 業の用に供している	3,653,450,562
	建物減価償却累計額		上記建物に係る減価償却累計額	△ 1,221,255,206
	医療用器械備品	医療用器械備品類 413点	公益目的保有財産であり、公益目的事 業の用に供している	1,692,750,074
	医療用器械備品減価 償却累計額		上記医療用器械備品に係る減価償却 累計額	△ 1,496,943,916
	その他器械備品	什器、備品 189点	公益目的保有財産であり、公益目的事 業の用に供している	291,275,632
	その他器械備品減価 償却累計額		上記その他器械備品に係る減価償却 累計額	△ 211,121,043
	土地	東京都港区西麻布三丁目25番4 6.24㎡	公益目的保有財産であり、公益目的事 業の用に供している	16,275,681
		東京都港区西麻布三丁目25番5 82.61㎡	〃	215,470,190
		東京都港区西麻布三丁目80番1 644.92㎡	〃	1,661,341,743
		東京都港区西麻布三丁目81番1 730.52㎡	〃	1,880,770,022
	ソフトウェア	電子カルテシステム等 96点	公益目的保有財産であり、公益目的事 業の用に供している	87,933,888
	その他の無形固定資 産	商標権 2点	〃	19,336
	敷金	借り上げの職員宿舎に係るもの	〃	6,569,000
	長期前払費用	借り上げの職員宿舎礼金の資産計上分	〃	590,584
破産更生債権等		発生後1年を経過した診療収入の未収 金	2,128,797	
貸倒引当金		上記破産更生債権等に係る回収不能 見込み額	△ 2,128,797	
その他固定資産合計				6,577,126,547
(流動負債)				
その他固定資産合計 (流動負債)	買掛金	アルフレッサ メディカルサービス(株)	診療材料、医薬品購入の未払い分	226,832,344
		アルフレッサ(株)	〃	39,295,930
		(株)メテオ	〃	28,542,832
		他 8社	〃	26,505,174
	未払金	富士フィルムメディカル(株)	部門システムの未払い分	29,782,500
		(株)LSIメディアエンス	検査委託費用の未払い分	17,985,843
		(株)エムシー	医療機器等の未払い分	12,113,200
		他 55社	諸経費の未払い分	54,448,902
		2024年3月給与等未払分	2024年3月分の超過勤務手当等の未払 い分	14,979,185
		2024年3月分法人負担社会保険料	法人負担分社会保険料の未払い分	12,750,025
		期末退職者退職金等 その他の未払い金	2024年3月末退職金等の未払い分 その他諸経費の未払い分	9,307,000 9,425,137
	前受金	診療収益の前受金		461,600
	預り金		職員の源泉所得税・住民税・社会保険 料等の預かり分	12,452,621
	賞与引当金	職員に対するもの	翌年度分の職員に対する賞与の支払 いに備えたもの	95,717,981
流動負債合計				590,600,274
(固定負債)				
固定負債合計	長期末払金	退職金経過措置一時金加算分債務 リース債務	該当職員の支払いに備えたもの リース資産(公益目的)の支払債務	10,272,253 3,693,800
	退職給付引当金	役職員に対するもの	役職員の退職金の支払いに備えたもの	559,366,427
固定負債合計				573,332,480
負債合計				1,163,932,754
正味財産				11,911,193,567